

- 問1 戦国大名の武田信玄が制定した「甲州法度之次第」のように、当時の有力な大名たちが独自の法律を定めた主な目的として、最も適切なものはどれですか。 (2024年 千葉県公立入試 類似)
1. 朝廷から与えられた官位の順序に従って、家臣の序列を整理するため
 2. 室町幕府の命令を全国の農民に守らせ、将軍の権威を強めるため
 3. キリスト教の布教を制限し、外国との貿易を大名が独占するため
 4. 家臣同士の争いを抑え、民衆を含めた領民全体を統制して領国を安定させるため
- 問2 戦国時代を象徴する「下剋上」という言葉の意味や背景として、最も適切な説明はどれですか。 (2018年 熊本県公立入試 類似)
1. 農民が団結して自治組織を作り、守護による年貢の取り立てを拒否したこと。
 2. 幕府が守護の権限を強め、地方の国人や農民を厳しく統制しようとしたこと。
 3. 身分の低い者が実力によって上の立場の者を倒し、勢力を拡大させていったこと。
 4. 朝廷が有力な武士に官位を与え、伝統的な身分秩序を維持しようとしたこと。
- 問3 16世紀半ば、イエズス会の宣教師フランシスコ・ザビエルが日本を訪れ、キリスト教を伝えた当時の世界情勢に関する説明として最も適切なものはどれか。 (2020年 埼玉県公立入試 類似)
1. 宗教改革によって誕生したプロテスタントの諸国が、アジアにおける植民地支配を広めるために宣教師を派遣していた。
 2. 十字軍の遠征が成功したことで、キリスト教勢力がイスラム教勢力を圧倒し、アジア全域での布教が容易になっていた。
 3. ヨーロッパで宗教改革が起こり、勢力を立て直そうとするカトリック教会が海外への布教を積極的に進めていた。
 4. ルネサンスによる科学の発達により、日本の戦国大名から西洋の進んだ宗教や文化を導入したいという正式な要請があった。
- 問4 室町時代から戦国時代にかけて、家臣が主君に打ち勝って実力を伸ばすなどの風潮が広がりました。このような下剋上の風潮の中で、戦国大名が家臣の行動を取りしめ、領国を独自に支配するために定めた法律を何といいますか。 (2026年 岩手県公立入試 類似)
1. 武家諸法度
 2. 分国法
 3. 御成敗式目
 4. 公家諸法度
- 問5 戦国時代の都市についてまとめられた資料において、「有力な商人による自治的な運営が行われていたこと」「種子島に伝来した鉄砲の主要な生産拠点となったこと」「千利休などの商人がわび茶の文化を完成させたこと」という3つの特徴を持つ、現在の大阪府に位置する港町はどこですか。 (2023年 滋賀県公立入試 類似)
1. 博多
 2. 堺
 3. 長崎
 4. 平戸
- 問6 戦国大名が「分国法」を制定した目的や、その社会的な背景を説明した文として最も適切なものはどれですか。 (2016年 福岡県公立入試 類似)
1. 徳川將軍家への忠誠を誓わせ、大名による勝手な婚姻や城の補修を制限して謀反を防ぐため。
 2. 下剋上の世において、家臣同士の私的な争いを禁じ、領国内の秩序を安定させて支配力を強めるため。
 3. 裁判の迅速化を図るため、過去の判例を整理して評定衆の裁決の基準を明確にするため。
 4. 幕府の法に基づく全国統一的な裁判基準を確立し、朝廷の権威を回復させるため。
- 問7 15世紀後半の応仁の乱以降、室町幕府の権威が低下するなかで、各地の戦国大名が自らの領国内を独自に統治・管理するために制定した法律を何というか、正しい名称を選びなさい。 (2023年 福井県公立入試 類似)
1. 分国法
 2. 御成敗式目
 3. 武家諸法度
 4. 公事方御定書
- 問8 戦国大名が領国内の統制を図るために定めた「分国法」の性質について説明したものとして、正しいものはどれですか。 (2024年 東京都公立入試 類似)
1. 大名が自分の領国内にのみ適用した独自の法律であり、地域の実情に応じた内容であった。
 2. 豊臣秀吉が全国を統一した後、農民から武器を取り上げるために発令したものであった。
 3. 日本で最初の本格的な法律であり、天皇を中心とした律令国家の仕組みを定めたものであった。
 4. 源頼朝が全国の守護や地頭に対して、公家との紛争を公平に裁くために制定したものであった。
- 問9 16世紀半ば、フランシスコ・ザビエルらイエズス会の宣教師が日本を含むアジアなど世界各地へ布教に赴いた歴史的な背景として、最も適切なものはどれですか。 (2017年 京都府公立入試 類似)
1. 十字軍の遠征が失敗し、キリスト教徒が住む場所をアジアに求めたため
 2. ヨーロッパで始まった宗教改革に対し、カトリック教会が勢力を立て直そうとしたため
 3. 産業革命によって生産された工業製品を販売する市場を求めていたため
 4. マルコ・ポーロが『世界の記述（東方見聞録）』で日本を黄金の国と紹介したため
- 問10 室町時代後半から戦国時代にかけて、実力のある者が身分の高い者に打ち勝って勢力を広げていく社会風潮が見られました。このような風潮を何と呼びますか。 (2022年 熊本県公立入試 類似)
1. 惣領制
 2. 下剋上
 3. 徳政令
 4. 寄合
- 問11 平安時代中期から安土桃山時代にかけて、武士が政治の主導権を握っていく過程で起きた次の4つの出来事を、発生した時期の古い順に並べたものとして正しい説明を選びなさい。 1. 平将門が関東で反乱を起こし、「新皇」と称した。 2. 平清盛が武士として初めて最高官職である太政大臣に就任した。 3. 北条泰時が、御家人の裁判の基準を明確にするため御成敗式目を制定した。 4. 織田信長が、室町幕府の将軍であった足利義昭を京都から追放した。 (2015年 岡山県公立入試 類似)
1. 「平将門の乱」→「御成敗式目の制定」→「平清盛の太政大臣就任」→「織田信長による足利義昭の追放」
 2. 「平将門の乱」→「平清盛の太政大臣就任」→「御成敗式目の制定」→「織田信長による足利義昭の追放」
 3. 「平将門の乱」→「平清盛の太政大臣就任」→「織田信長による足利義昭の追放」→「御成敗式目の制定」
 4. 「平清盛の太政大臣就任」→「平将門の乱」→「御成敗式目の制定」→「織田信長による足利義昭の追放」
- 問12 戦国時代の九州を代表する大名で、現在の府内（大分市）を拠点にキリスト教を保護し、有馬晴信や大村純忠とともにローマ教皇のもとへ「天正遣欧少年使節」を派遣した人物は誰ですか。 (2025年 京都府公立入試 類似)
1. 今川義元
 2. 朝倉義景
 3. 北条氏康
 4. 大友宗麟
- 問13 16世紀のポルトガルによる日本への鉄砲伝来やキリスト教の布教は、当時のヨーロッパにおける宗教的情勢と深く関わっています。カトリック諸国がアジアへの進出を強めた背景について、正しい用語を組み合わせた説明を選びなさい。 (2021年 愛知県公立入試 類似)
1. 宗教改革を弾圧したカトリック諸国が、プロテスタントと協力してアジアでのキリスト教布教を進めた。
 2. 十字軍の遠征によってカトリックが衰退したため、新しく誕生したプロテスタントが海外貿易を主導した。
 3. 宗教改革によって誕生したプロテスタントに対抗し、カトリックが海外進出を通じて勢力拡大を図った。
 4. ルネサンスの影響で誕生したプロテスタントが、カトリックを国外へ追放するために海外進出を支援した。

答え合わせ・解説

問1	答え 4 家臣同士の争いを抑え、民衆を含めた領民全体を統制して領国を安定させるため	戦国大名は、領国内での紛争を解決し、家臣団の結束を固めることで軍勢力を維持し、他国との戦いに備える必要がありました。「甲州法度之次第」では、人々の行動を取り締まることで国の統治を目指す姿勢が示されています。これは中央政府である幕府ではなく、各大名が独立して統治を行っていた実態を反映しています。
問2	答え 3 身分の低い者が実力によって上の立場の者を倒し、勢力を拡大させていったこと。	下剋上は、室町時代末期から戦国時代にかけて全国的に見られた現象です。守護代が守護を追放したり、家臣が主君から実権を奪ったりするなど、家柄や伝統よりも個人の実力が重視されるようになりました。これにより、各地で戦国大名が台頭し、独自の領国支配を行うきっかけとなりました。
問3	答え 3 ヨーロッパで宗教改革が起こり、勢力を立て直そうとするカトリック教会が海外への布教を積極的に進めていた。	ルターやカルヴァンによる宗教改革によってカトリック教会の権威が揺らぐ中、カトリック側は勢力回復のためにアジアやアメリカ大陸への布教を強化した。この流れの中で、1534年に結成されたイエズス会のザビエルが日本へ派遣されることとなった。プロテスタントが本格的に日本に関わるのは、17世紀のオランダやイギリスの来航を待つことになる。
問4	答え 2 分国法	戦国大名が自らの領国を統治し、家臣の行動を取りしめるために定めた独自の法律を「分国法」といいます。江戸幕府が大名を統制するために定めた「武家諸法度」と混同しないように注意が必要です。
問5	答え 2 堺	戦国時代の堺は、会合衆（えごうしゅう）と呼ばれる有力な商人が中心となって自治的な町運営を行っていました。堀を巡らせて自衛を行うほど経済力と組織力を持っており、鉄砲の生産や茶の湯といった文化の面でも、日本の歴史上重要な役割を果たしました。
問6	答え 2 下剋上の世において、家臣同士の私的な争いを禁じ、領国内の秩序を安定させて支配力を強めるため。	戦国時代、家臣同士の武力衝突は領国の弱体化につながるため、戦国大名は「喧嘩両成敗」などの規定を盛り込んだ分国法を定め、私闘を禁じました。自らの領地を「一国」として独立して統治しようとする大名の姿勢が、この法の制定に表れています。選択肢にある徳川氏による大名統制は江戸時代の武家諸法度、判例の整理は江戸中期の公事方御定書の説明です。
問7	答え 1 分国法	室町幕府の統治能力が弱まった戦国時代、各地の戦国大名が領国を安定して支配するために独自に定めた法典です。幕府の法（幕府法）や荘園領主の法ではなく、大名自身の権力に基づいて定められた点に特徴があります。
問8	答え 1 大名が自分の領国内にのみ適用した独自の法律であり、地域の実情に応じた内容であった。	分国法は、駿河国の「今川仮名目録」や甲斐国の「甲州法度之次第」のように、各戦国大名がそれぞれの領国の維持・発展のために独自に定めた法典です。幕府による全国一律の支配が及ばなくなった時代において、各大名が家臣の統制や年貢の確保、領民の管理などを目的として作成しました。他の選択肢にある大宝律令や御成敗式目、刀狩令とは時代や制定主体が異なります。
問9	答え 2 ヨーロッパで始まった宗教改革に対し、カトリック教会が勢力を立て直そうとしたため	ルターやカルバンによる宗教改革によって、ヨーロッパ内でのカトリック教会の権威が揺らぎました。これに対抗するため、カトリック側は自己改革を行うとともに、イエズス会などの組織を通じて世界各地にキリスト教を広め、教勢を回復しようとする「対抗宗教改革」の動きを強めました。ザビエルの来日もこの一環として位置づけられます。
問10	答え 2 下剋上	室町幕府の権威が衰退した応仁の乱以降、身分に関わらず実力のある者が台頭する「下剋上」の風潮が強まりました。これにより、もともと守護大名の家臣であった守護代や、さらにその下の国人が、主君を追放して戦国大名へと成長していく動きが各地で加速しました。
問11	答え 2 「平将門の乱」→「平清盛の太政大臣就任」→「御成敗式目の制定」→「織田信長による足利義昭の追放」	平安時代中期の10世紀に起きた平将門の乱は、武士の実力と地方勢力の台頭を象徴する出来事です。その後、12世紀後半に平清盛が平氏政権を樹立し、武士として初めて太政大臣となりました。鎌倉時代の1232年には、承久の乱後の社会混乱を収めるため北条泰時が御成敗式目を制定しました。そして戦国時代末期の1573年、織田信長が足利義昭を追放したことで室町幕府は滅亡し、中世から近世へと時代が大きく動くことになりました。
問12	答え 4 大友宗麟	大友宗麟は豊後（大分県）を本拠地とした有力な戦国大名です。フランシスコ・ザビエルの布教を認めて以降、キリスト教を厚く保護し、海外貿易を積極的に行いました。1582年には、伊東マンショら4人の少年をローマへ派遣する使節の送り主の一人となりました。
問13	答え 3 宗教改革によって誕生したプロテスタントに対抗し、カトリックが海外進出を通じて勢力拡大を図った。	当時のヨーロッパでは、宗教改革の進展によってキリスト教の世界がプロテスタントとカトリックに二分されていました。特にポルトガルやスペインなどのカトリック諸国にとって、海外進出は単なる商業的な利益だけでなく、プロテスタントに対抗してカトリックの教えを世界に広めるという重要な使命を持っていました。このため、大航海時代の進出は貿易とキリスト教の布教が一体となって進められました。